

第2版に寄せて

本書の初版刊行は2009年であった。この第2版は、その後の憲法判例等の動向を盛り込むなどしたものである。本書は、刊行後、憲法の教科書では通常取り上げていない問題を取り上げている点、実際の出来事を各章の冒頭に配置した点等が目ざされ、ユニークな教科書として一定の評価を得ることが出来た。大学で憲法を学習する学生ないし様々な憲法問題に関心を有する市民を讀者として想定していたが、思わぬことに、法科大学院に入学して法曹を目指す人にもある程度読まれているようだ。初版の「はじめに」に書いたことだが、本書は、現実の苦悩の中を生きる人々の切実な要求がいかにして〈法の世界〉の言葉に翻訳されるのかを問うた。このことが、日本国憲法の理念を具体化する法曹をめざす人の志と多少共振したのかもしれない。

ご存じのとおり、初版の刊行以後、2011年3月の東日本大震災と福島第一原発の事故によって、私たちが生きる日本社会は甚大な被害を受けている。それらの問題についてこの第2版では触れられていないが、この苦難の中にあっても、一人ひとりが個人として尊重される社会を目指すという本書の執筆者が共有する理念はいささかも変わらない。

憲法を学ぶ意義を讀者が本書を通じて再確認してもらえるのであれば、執筆者一同、身に余る光栄である。

2013年3月

編者代表 石崎 学